

平成28年産 米の初検査

【生育概況】

本年の水稲の生育は、春が好天に恵まれたことから融雪が早く、播種・移植ともにおおむね順調に推移いたしました。その後、5月の強風や6月の低温・日照不足のため初期生育が停滞しましたが、7月以降の天候回復により生育が回復し、8月15日現在における農水省発表の作柄概況は「やや良」となりました。

しかし、8月下旬からの相次ぐ台風の上陸や低気圧の影響により、被害を受けた地域もあると報告されており、今後、各地で収穫や調製作業が本格化することから、例年に増して慎重な対応が必要となってまいります。

【検査概況】

本年産の収穫作業は台風や雨害等の影響により、地域間でバラつくことが予想されますが、空知、上川地区ではほぼ平年並の9月上旬に検査が開始され、その他の地区においても、順次開始される予定です。

現在の検査品の品位については、若干の未熟粒や乳白粒の混入は見られますが、総じて検査基準を満たした良質なお米が検査されております。

【各地の検査風景】



(9月9日 JAびばい らいす工房検査場所)



(9月12日 JA東川 東川農産物検査所)